

カリキュラムの特色

カリキュラムの特色

I 3科目群と4段階の学び

経済学部は、ディプロマ・ポリシーにもとづく教育目標の達成に向けて、順次性のある体系的なカリキュラムを編成しています。具体的には、以下のように専門教育科目を基礎科目、基幹科目、発展科目の三群に区分し、それぞれの目的と性格を明確に位置づけています。

- 基礎科目：汎用的基礎学力と経済学の理論的基礎を培う科目
- 基幹科目：経済の諸課題の発見を可能とし、専門分野の学びへの導入を図る基幹的な科目
- 発展科目：多層的な視点からの応用的および実践的な学びをとおして学びの総合へ導く科目

さらに、以上の3つの科目群の学びを基礎、応用、実践、総合の4つ段階に分けて、専門分野の学びの成果を段階的に積み上げながら獲得できるカリキュラムとなっています。

㉑ 基礎

経済理論の基礎を学ぶ中で、経済の諸問題にアプローチするための基本的な考察を行い、経済学的な思考を身につけます。また、実践的な英語力、数学的な分析手法、データ収集、情報処理の技法など、経済学の基盤となるスキルを修得します。

㉒ 応用

基礎レベルで学んだ知識を基盤として経済学の専門分野を学ぶ中で、探求すべき問題を発見し、それぞれの専門分野に関する論理的思考力、応用的分析力を身につけ、現代経済の問題解決を展望できる能力を磨きます。

㉓ 実践

基礎・応用と段階的に積み重ねた経済的知見を、企業や行政の実務とのフィードバックによって検証するとともに、さまざまな経済活動を体験的に学ぶ中で実践的応用力を高めます。

㉔ 総合

演習の場において文献講読、プレゼンテーション、討論などを通じて専門研究を深め、4年間の仕上げとして卒業論文をまとめます。課題設定、資料収集、仮説検証、結論導出という論文作成過程の中で、創造的思考力と総合的構想力を培います。

II 学士力の修得と系統的学び

体系的に編成された専門教育科目を段階的に学ぶことによって、4年間の学びの目標である学士力を系統的に身に付けることができます。

目標とする学士力は、つぎのとおりです。

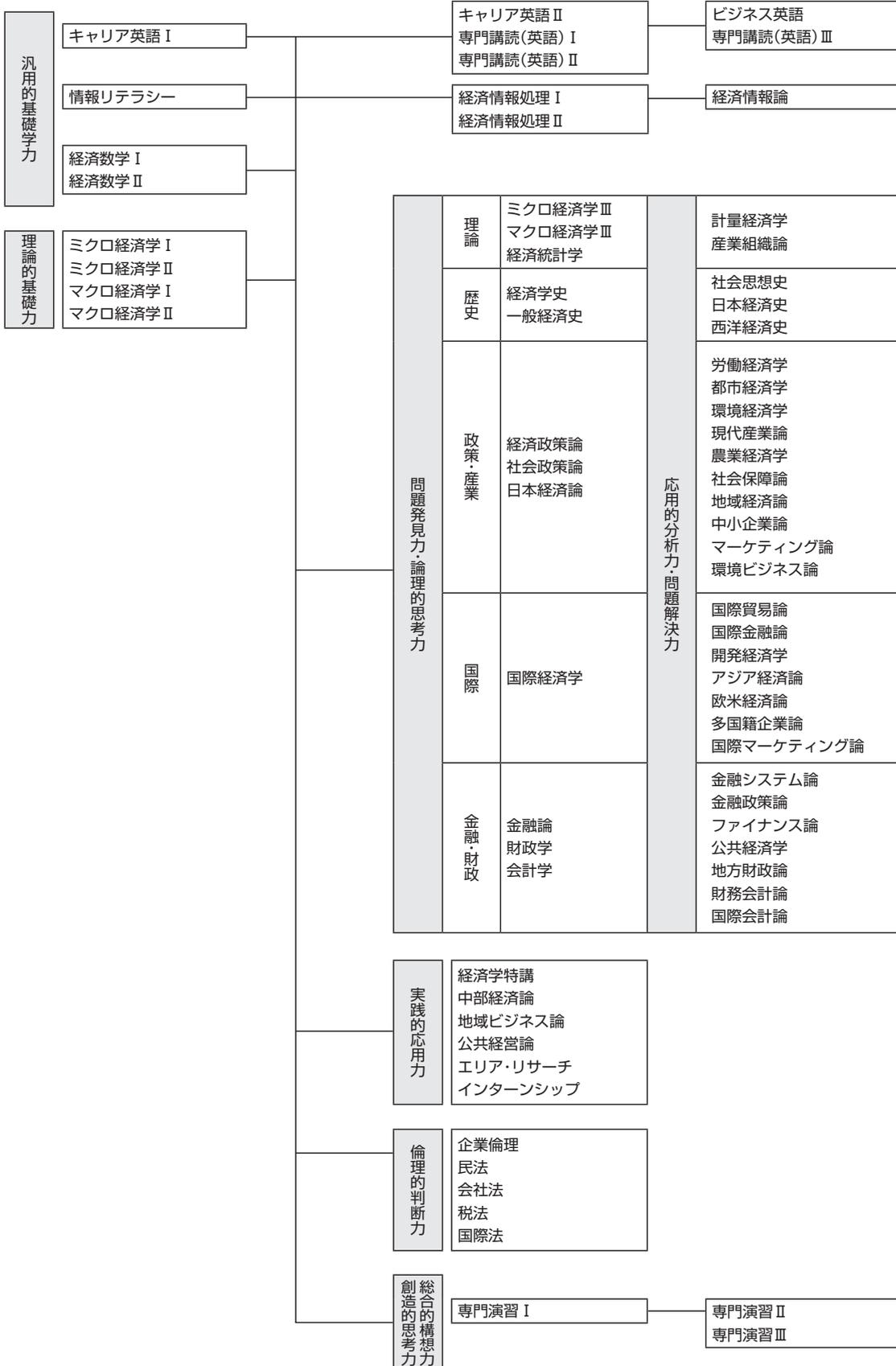
- ㉑ 汎用的基礎学力 理論的基礎力
- ㉒ 問題発見力 論理的思考力
- ㉓ 応用的分析力 問題解決力 実践的応用力
- ㉔ 創造的思考力 総合的構想力 倫理的判断力

それぞれの学士力と履修科目との関係は、つぎの図に示されます。

カリキュラムの特色

カリキュラムの特色

経済学部における系統的履修(学士力と履修科目)



進級

(1)進級要件

「第3年次への進級に関する内規」(P.64参照)に基づき、2年次から3年次への進級に必要な単位数は48単位です。2年次修了時点で卒業要件科目の内48単位以上修得した者は、修得科目に関わらず3年次へ進級できます。1年次から2年次へ、3年次から4年次への進級要件はありませんので、自動的に進級します。なお、1セメスター休学した場合でも次の学年に進級します。ただし、2セメスター連続して休学した場合は、原級にとどまります。

(2)進級時期

進級時期は、3月(2年次秋学期)のみです。2年次春学期修了時点で進級要件を充足しても年度途中に3年次へ進級することはできません。

進級可能者は3月中旬にお知らせします。

(3)進級不可(留年)について

進級不可(留年)となった学生については、3月中旬に保証人宛に通知します。

卒業

(1)卒業要件

大学を卒業するためには、以下の2点を満たさなければなりません。

- ①通算して4年(8セメスター)以上在学した者(休学期間は除く)。
 - ②学則第8条に定められている所定の128単位(卒業に必要な単位数)を修得した者(詳細はP.38・39参照)。
- 注) 4年次修了時点で上記の条件を満たしていなければ、128単位以上修得していても卒業することはできません。

(2)学位の授与

卒業要件を充足した者は、学則第37条により学士(経済学)の学位が授与されます。

(3)卒業時期

卒業時期は、3月または9月のいずれかです。いずれの場合も要件を充足した場合は卒業となります。

①3月卒業

4年次秋学期修了時点で卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。
卒業可能者は、3月上旬に保証人宛に通知します。

②9月卒業

4年次春学期時点で、4年(8セメスター)以上在学し、卒業要件を充足した者(上記「卒業要件」参照)。
卒業可能者は、9月中旬に保証人宛に通知します。

(4)卒業不可(留年)について

卒業不可(留年)となった学生については、3月上旬に保証人宛に通知します。

次年度以降の卒業に関する調査を行います。所定の用紙を履修登録期間までに教務課または名城公園キャンパス事務室へ提出してください。

カリキュラム概要

1 教養教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件(36単位)		1年次	2年次	3年次	4年次
	内訳	分野合計				
宗教学	4単位	4単位	宗教学Ⅰ②・Ⅱ②			
教養基幹科目			教養セミナーⅠ①・Ⅱ①	教養セミナーⅢ①・Ⅳ①		
	人文系	4単位	心理学Ⅰ②・Ⅱ②、哲学Ⅰ②・Ⅱ②、論理学Ⅰ②・Ⅱ②、文学Ⅰ②・Ⅱ②、美術Ⅰ②・Ⅱ②			
	社会系	4単位	法学Ⅰ②・Ⅱ②、政治学Ⅰ②・Ⅱ②、社会学Ⅰ②・Ⅱ②、教育学Ⅰ②・Ⅱ②、歴史学Ⅰ②・Ⅱ②、地理学Ⅰ②・Ⅱ②			
	自然系	4単位	数学Ⅰ②・Ⅱ②、統計学Ⅰ②・Ⅱ②、物理学Ⅰ②・Ⅱ②、化学Ⅰ②・Ⅱ②、生物学Ⅰ②・Ⅱ②			
	主題系	4単位	仏教と現代社会Ⅰ②・Ⅱ②、 禅と人間Ⅰ②・Ⅱ②、 生命に関する諸問題Ⅰ②・Ⅱ②、 人間行動の理解Ⅰ②・Ⅱ②、 人間の尊厳と平等Ⅰ②・Ⅱ②、 日本の文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、 アジアの文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、 ヨーロッパの文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、 英語圏の文化と社会Ⅰ②・Ⅱ②、 人間と環境Ⅰ②・Ⅱ②、 情報と社会Ⅰ②・Ⅱ②、 産業と科学Ⅰ②・Ⅱ②、 ソフトウェア概論Ⅰ②・Ⅱ②、 健康の科学②			
外国語科目(注1)	第1外国語	4単位	英語Ⅰa①・Ⅱa①、英語Ⅰb①・Ⅱb①			
	第2外国語	独・中・仏・韓国語の中から2単位	ドイツ語Ⅰ①・Ⅱ①、中国語Ⅰ①・Ⅱ①、フランス語Ⅰ①・Ⅱ①、韓国語Ⅰ①・Ⅱ①			
	文化事情	独・中・仏・韓国文化事情の中から2単位	ドイツ文化事情②、中国文化事情②、フランス文化事情②、韓国文化事情②			
健康総合科学科目	2単位	2単位	スポーツ科学Ⅰ①・Ⅱ①			
	◎へ算入		スポーツ科学Ⅲ①・Ⅳ①			
外国語科目	エレクトティブ	◎へ算入	【英語】 英会話Ⅰ①・Ⅱ①、 メディア英語Ⅰ①・Ⅱ①、英語表現Ⅰ①・Ⅱ①、 英語読解Ⅰ①・Ⅱ①、実践英語Ⅰ①・Ⅱ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【中国語】 中国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【フランス語】 フランス語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)① 【韓国語】 韓国語Ⅰ(基礎)①・Ⅱ(基礎)①			
			【英語】 英会話Ⅲ①・Ⅳ①、 メディア英語Ⅲ①・Ⅳ①、 英語表現Ⅲ①・Ⅳ①、英語読解Ⅲ①・Ⅳ①、実践英語Ⅲ①・Ⅳ① 【ドイツ語】 ドイツ語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、ドイツ語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、 ドイツ語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、ドイツ語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【中国語】 中国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、中国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、 中国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、中国語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【フランス語】 フランス語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、フランス語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、 フランス語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、フランス語会話Ⅰ①・Ⅱ① 【韓国語】 韓国語Ⅲ(読解)①・Ⅳ(読解)①、韓国語Ⅲ(表現)①・Ⅳ(表現)①、 韓国語Ⅲ(総合)①・Ⅳ(総合)①、韓国語会話Ⅰ①・Ⅱ①			
海外事情科目	◎へ算入		海外事情Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 各②			
自由選択科目	卒業要件単位に算入されない		キャリア・デザイン②			

カリキュラム概要

2 専門教育科目

○内数字 = 単位数
 = 必修科目

分野	卒業要件 (76単位)	1年次	2年次	3年次	4年次
基礎科目	20単位	ミクロ経済学Ⅰ②・Ⅱ② マクロ経済学Ⅰ②・Ⅱ② 経済数学Ⅰ②・Ⅱ② キャリア英語ⅠA②・B② 情報リテラシーA②・B②			
基幹科目	16単位		経済統計学A②・B② 経済学史A②・B② 一般経済史A②・B②	経済政策論A②・B② 社会政策論A②・B② 日本経済論A②・B②	国際経済学A②・B② 金融論A②・B② 財政学A②・B②
発展科目	第一類		ミクロ経済学Ⅲ② マクロ経済学Ⅲ② 公共経済学A②・B② 農業経済学A②・B② 現代産業論A②・B② 国際貿易論A②・B②	国際金融論A②・B② 開発経済学A②・B② 会計学A②・B② 金融システム論② 地域経済論② 経済情報処理Ⅰ②	経済情報処理Ⅱ② 民法② 税法② 会社法② 国際法A②・B②
				計量経済学A②・B② 日本経済史A②・B② 西洋経済史A②・B② 労働経済学A②・B② 環境経済学A②・B② 都市経済学A②・B② 地方財政論A②・B② 経済情報論A②・B② 社会思想史②	社会保障論② 産業組織論② 中小企業論② 金融政策論② ファイナンス論② アジア経済論② 欧米経済論② 多国籍企業論②
			インターンシップ②		
		第二類			財務会計論A②・B② 国際会計論A②・B② マーケティング論A②・B②
	第三類	中部経済論② 地域ビジネス論②	公共経営論② エリアリサーチⅠ②	エリアリサーチⅡ② エリアリサーチⅢ②	
	第四類	必修を含め 14単位	専門演習Ⅰ② 専門講読Ⅰ(英語)②・Ⅱ(英語)② 専門講読Ⅲ(英語)② キャリア英語ⅡA②・B②、経済学特講Ⅳ②・Ⅴ②	専門演習Ⅱ④ 専門演習Ⅲ④ ビジネス英語A②・B② 経済学特講Ⅰ②	経済学特講Ⅱ② 経済学特講Ⅲ②
③ 26単位		発展科目 第一類～第三類 + 基幹科目、発展科目 第四類 の中で必要最低単位数を超えた単位			

3 グレーゾーン

必要単位数 ◎ 16 単位	a. 「教養教育科目」または「専門教育科目」で必要最低単位数を超えた単位 b. 教養教育科目の「スポーツ科学Ⅲ・Ⅳ」「外国語科目(エレクトティブ)」「海外事情」 c. 他学部・他学科科目(注3) e. 単位互換科目(単位互換A～Z)
------------------	---

卒業要件単位 合計 ①+②+③=128単位

- (注1) 外国人留学生の外国語科目の履修についてはP.10を参照してください。
 (注2) 「人文系」「社会系」「自然系」「主題系」で修得した単位の内、必要最低単位数を超えた単位は④→③の順で算入される。
 (注3) 他学部・他学科科目で修得した24単位の内、16単位までは◎に、残りの8単位は③にそれぞれ算入される。

授業科目の概要

教養教育科目

教養教育科目

教養教育科目の理念と目標

教養教育では、「学生一人ひとりの人間性を尊重しつつ、豊かな教養と高い品位を兼ね備えた人間の育成を目指す」という理念のもとに、大学教育の土台となる「基礎学力の育成」、ならびに多様な価値観と深い洞察力を育成する「リベラル・アーツの修得」を柱として、多彩な科目を開講しています。学生の皆さんが将来豊かな教養を兼ね備えた人材として社会に貢献できることを目指します。

宗教学

「建学の精神」に基づいて、宗教、特に禅・仏教を学びます。そこには「人間の弱さや愚かさ、強さや素晴らしさ」についての豊かな洞察が含まれています。

授業は、共通のテキストを用いた講義が中心ですが、各担当教員は視聴覚教材を活用するなど、独自の工夫を凝らしています。また、年1、2回「坐禅の体験実習」も行います。

この科目を通して「生きること」「信じること」の意味について考えてみましょう。

○宗教学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので4単位を修得する必要があります。

教養セミナー「学問の発見」

高校までの受動的な学習形態を能動的な形へ転換させ、大学での基本的な学習姿勢を教授するための科目です。本授業では、「学問の発見」という共通のテーマのもとに、担当教員が工夫を凝らした、様々な授業が用意されています。皆さんの興味・関心に合わせて授業が選択できるようになっており、レポートの書き方など、スタディスキルも扱いながら、少人数のセミナー形式で授業が行われます。また、本授業の担当者は、1、2年次のアドバイザーとなり、授業以外にも、成績配付、履修指導、その他、学生生活全般において皆さんをサポートします。

○アドバイザーについては、P.47を参照してください。

注)教養セミナー「学問の発見」Ⅰ・Ⅱは1年次生しか履修できません。

教養基幹科目

教養基幹科目は教養セミナー「学問の発見」と人文系・社会系・自然系・主題系の各科目からなっています。人文系・社会系・自然系科目では、専門教育に不可欠な広い視野と学問領域にとらわれない広範な教養、そして豊かな人間性の育成を目標としています。総合大学としてのメリットを最大限に生かし、幅広い学問領域をカバーする多彩な科目でカリキュラムを構成すると共に、教養セミナー「学問の発見」での教員との触れ合いを通して、新入生が大学に溶け込みやすいように工夫しています。主題系科目においては、学際的で広い領域の中からテーマを設定し、それぞれの主題について総合的な理解を深めるために複数の教員が担当する授業や、特定のテーマについてより深く掘り下げて学ぶ授業が行われます。

○人文系・社会系・自然系・主題系科目は各分野で4単位ずつ、さらに教養基幹科目全体の中から(教養セミナー含む)6単位、最低でも合計で22単位を修得する必要があります。

外国語科目

①第1外国語[英語]

英語は、アメリカ・イギリスなどの英語圏で話されているだけでなく、母語の異なる人たちの間の共通語としても用いられているなど、国際化が進展する今日の社会において、その重要性はますます高まりつつあります。

英語カリキュラムは、現代社会において必要な英語コミュニケーション能力の育成を図ることを目的としており、コア(必修科目)とエレクトィブ(選択科目)からなっています。

コアにおいては、読む・書く・聴く・話すという4技能の養成を図ります。これら4技能をバランスよく修得することは、すべての語学学習にとって必要不可欠です。

○第1外国語(英語)は、希望したコースに基づいてクラス分けが行われます。

クラス分けの結果とコースは最初の授業までに発表します。

○科目名のアルファベットは以下の内容を表しています。

a - Listening ComprehensionとOral Communication

b - Reading

c - Writing

○英語は必修科目であり、1年次に英語Ⅰa・Ⅰa・Ⅰb・Ⅰb 4単位を修得する必要があります。

○各開講年次で修得できなかった者は、時間割表に(未修得者)と表示されている科目の中から履修してください。

授業科目の概要

教養教育科目

②第2外国語【ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語】

第2外国語は、ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語が開講されています。国際化が叫ばれる中で、多様な世界を知り、それを理解するためには、英語以外の外国語を学習することも大切です。異文化への理解を深め、国際人として通用する教養を養うために、積極的に第2外国語の学習に取り組んでください。選択必修科目ですので、1年次にドイツ語・中国語・フランス語・韓国語の中から1言語を選択して履修することになります。また、2年次以上ではエレクトティブ(選択科目)を履修することができます。

なお、第2外国語は未修外国語ですので、コアの授業では基礎的な部分の学習に止まらざるを得ません。当該言語の能力をより高めるために、2年次以降にエレクトティブ(選択科目)を履修することが大いに望まれます。

○第2外国語はコア(必修科目)の2単位を修得する必要があります。

○第2外国語のクラスは希望した言語に基づいて編成します。クラス編成上、第1希望にそえない場合があります。DA・DBクラスはドイツ語、CA～CFクラスは中国語、FA・FBクラスはフランス語、KA・KBクラスは韓国語となっています。※なお、決定された第2外国語は、変更することができません。

③文化事情【ドイツ文化事情・中国文化事情・フランス文化事情・韓国文化事情】

第2外国語として学習する、ドイツ語・中国語・フランス語・韓国語、これらの言語の背景にある文化や風俗、人々の生活などについて学ぶ科目です。選択必修科目ですので、ドイツ文化事情・中国文化事情・フランス文化事情・韓国文化事情の中から1科目を選択して履修してください。半期科目のため、春学期或いは秋学期のいずれかで受講することになります。

なお、できる限り第2外国語で選択した言語の文化事情を履修するようにしてください(例：ドイツ語を選択した場合はドイツ文化事情を履修)。

○学籍番号が奇数の人は春学期に、偶数の人は秋学期に履修してください。

④エレクトティブ(選択外国語科目)

エレクトティブはコアを学習しながら、あるいはコアを学習した後、さらに各技能のレベルを高めるための科目となっており、豊富な教員を用意し、少人数クラスで多種多様な授業を行います。パソコンや視聴覚機器などを使用した科目も開講しています。

健康総合科学科目

健康総合科学では各種スポーツの「実践」と「理論」により、健康の価値と運動の楽しさを体験的に認識することによって健康の自己管理能力を養い、それぞれ各人の能力にあった運動を生涯スポーツとして確立し、広く社会に貢献しうる人材の育成を目的としています。スポーツ科学では「実践」により皆さんができるだけスポーツに親しむことを望んでおり、健康総合論では「理論」によって健康に関する諸問題を医学面、あるいは運動面から総合的にアプローチしていきます。

○スポーツ科学Ⅰ・Ⅱは必修科目ですので、2単位を修得しなければいけません。

○第1週目は授業内容などのガイダンスを行いますので、所定の教室に集合してください。

既往症、現在症などで運動制限をしなければいけない場合	第1週目の授業時に担当教員に必ず申し出る
見学を余儀なくされた場合	担当教員に申し出る (長期に渡る場合は、診断書などを提出)
試合などで休む場合	前もって担当教員に申し出る
天候不順の場合	授業変更は体育館事務室前に掲示

○更衣は指定場所で行い、衣服などの荷物を各競技場に持っていき、各自で管理してください。そのため、貴重品はできるだけ持ってこないようにしてください。

海外事情科目

海外の国に実際に足を踏み入れ、今まで学習してきた外国語を実際に使ってみることによって、新たな経験を積み、視野を広げることになります。

海外事情科目は、本学が行う「海外語学研修」をその内容としています(詳細については、P.31参照)。

授業科目の概要

専門教育科目

専門教育科目

I 専門教育科目の種類と内容

経済学部の専門教育科目は、専門分野の学びの成果を段階的に積み上げながら獲得できるように、以下の三つの科目群に区分されています。

- ①**基礎科目**：汎用的基礎学力と理論的基礎力を修得する。
- ②**基幹科目**：経済学の主要分野を包括的に学び、つぎの発展科目の学びへ繋げる。
- ③**発展科目**：専門性と実践性の高い分野を学び、経済学的総合力を身に付けることを目指す。

(1)基礎科目

基礎科目は、経済学部における学びの基礎となるものです。そのため、すべて科目が1年次に必修科目として開講されます。基礎科目では、クラスの規模を比較的小さくすることによって、教員と学生との間で双方向的なコミュニケーションをとりながら授業を実施します。

基礎科目は、つぎの10科目(20単位)です。

- ・経済学の理論的基礎力の修得を目的とする科目：
ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ
- ・汎用的基礎学力の修得を目的とする科目：
経済数学Ⅰ・Ⅱ、キャリア英語ⅠA・B、情報リテラシーA・B

(2)基幹科目

基幹科目は、1年次で学んだ基礎科目を発展させる科目と、より専門性の高い発展科目を学ぶために必要である基盤的な科目から構成されています。1年次において学んだ経済学の基礎学力をもとにして、2年次の基幹科目では経済学の主要な専門分野を広く学ぶなかで、経済学的思考力をさらに深めるとともに問題発見力を身に付けて、より専門性の高い分野を学ぶための準備を整えます。

基幹科目は選択必修科目として18科目(36単位)開講され、このうち16単位以上の修得が卒業要件となります。

(3)発展科目

経済学の学びをさらにいっそう深めるために、専門性の高い科目として発展科目が開講されます。この科目群を学ぶなかで、応用的分析力、問題解決力、総合的構想力などを磨きます。

①第一類

経済学の5つの主要分野に関する多彩な専門科目が開講されます。5つの主要分野と配置科目は、以下のとおりです。

- (a) 理論
ミクロ経済学Ⅲ マクロ経済学Ⅲ 経済統計学A・B 計量経済学A・B 産業組織論
- (b) 歴史
経済学史A・B 社会思想史 一般経済史A・B 日本経済史A・B 西洋経済史A・B
- (c) 政策・産業
経済政策論A・B 社会政策論A・B 日本経済論A・B 労働経済学A・B 都市経済学A・B
環境経済学A・B 現代産業論A・B 農業経済学A・B 社会保障論 地域経済論
中小企業論 環境ビジネス論 マーケティング論A・B
- (d) 国際
国際経済学A・B 国際貿易論A・B 国際金融論A・B 開発経済学A・B アジア経済論
欧米経済論 多国籍企業論 国際マーケティング論
- (e) 金融・財政
金融論A・B 金融システム論 金融政策論 ファイナンス論 財政学A・B
地方財政論A・B 公共経済学A・B 会計学A・B 財務会計論A・B 国際会計論A・B

②第二類

経済学の学びを補うために、経営学部と商学部で開講される科目が三学部連携科目として9科目開講されます。ここで修得した単位は、経済学部の卒業要件単位とすることができます。

③第三類

経済学部、経営学部、商学部の三学部の学生が学部の枠を超えて履修できる三学部共通科目が開講されます。企業や行政などから講師を招いて経済社会の生きた姿を学ぶとともに、商業・サービス地域などの実地における体験的学習を行います。これにより、専門科目で得た知識を検証し、理論と実践の現実的な関係について学ぶことができます。

授業科目の概要

専門教育科目

④ 第四類

語学系および演習系の専門科目と経済学特講が開講されます。これらの科目のうち必修科目を含む14単位以上を修得することが卒業要件です。

語学系科目として、2年次と3年次に専門講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(英語)(合計6単位)が開講されます。産業界を担うグローバルなビジネスパーソンは、これまで以上に語学力の修得が求められているため、専門講読(英語)の3科目はすべて必修科目です。また、語学的コミュニケーション能力のさらなる向上を図るために、キャリア英語ⅡA・B、ビジネス英語A・Bが選択科目として開講されます。ここでは、少人数クラスによる実践的なビジネス英語教育を実施します。

第四類のもうひとつの柱は演習系科目です。経済学の専門教育のなかで段階的に積み上げられる学びの成果は、卒業論文の執筆をもって完結します。経済学部では、専門演習Ⅰ(2年次秋学期)から専門演習Ⅱ(3年次通年)、専門演習Ⅲ(4年次通年)まで順次性をもった演習科目を学び、卒業論文の完成へ進みます。

このほかに第四類では、経済の重要なトピックスに焦点を当てた経済学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴが開講されます。

II 進路別コア履修モデル

経済学部で学ぶ専門分野は幅広く、多岐にわたっています。そのなかで、自分が関心をもつ分野について系統的に学ぶことが重要です。また、卒業後の進路を視野に入れて計画的に履修を進めることが大切です。羅針盤のない航海は、目的地に到達できません。そのため経済学部では、進路別にコアとなる授業科目を選んで履修モデルを設定しています。この進路別コア履修モデルを指針として、将来の進路にとって重要である科目分野を計画的かつ体系的に履修してください。

将来の進路としてとくに以下の5つの職業分野について、進路別コア履修モデルが設けられています。

㉑ グローカルビジネス分野

企業の中心的部門において、経済学の各領域をバランスよく熟知し、経済事象と経済政策を正しく解析する能力をもち、企業戦略の立案や展開に能動的に取り組むことができるビジネスパーソン

㉒ 金融ビジネス分野

金融政策、金融システム、地域金融の役割を正しく理解し、地域の経済状況と地域特性を把握して、その活性化に資する金融業務を遂行できる金融ビジネスパーソン

㉓ 公務員・公共的ビジネス分野

国あるいは地方公共団体において、経済社会に方向性を与えるべく経済政策を立案し、執行する公務員。

地域社会の福祉、医療、環境などの分野において、将来の社会の在り方に関する明確な構想力をもって実践活動に従事し、地域社会の発展をリードできる職業人

㉔ 専門的調査研究分野

民間の調査研究機関において、専門的な立場から内外の経済を調査・分析し、具体的な政策提言を行うことができる専門的調査研究員

㉕ 教育・研究分野

将来の社会を担う次代の世代の育成および学問研究を通じて社会の発展に寄与する教育・研究者

授業科目の概要

専門教育科目

【進路別コア履修モデル】

進路分野	① グローバル ビジネス	② 金融ビジネス	③ 公務員・ 公共的ビジネス	④ 専門職的 調査研究	⑤ 教育・研究
共通基盤科目	ミクロ経済学 マクロ経済学 経済数学 キャリア英語 情報リテラシー 専門講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(英語) 専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ				
コア科目	国際経済学 国際貿易論 国際金融論 国際会計論 日本経済論 現代産業論 開発経済学 アジア経済論 欧米経済論 地域経済論 多国籍企業論 国際マーケティング論	金融論 金融システム論 金融政策論 ファイナンス論 国際金融論 経済統計学 財政学 会计学 財務会計論 国際経済学 地域経済論	経済政策論 社会政策論 社会保障論 財政学 地方財政論 日本経済論 労働経済学 環境経済学 都市経済学 公共経済学 公共経営論	計量経済学 現代産業論 経済情報論 経済政策論 経済統計学 金融論 財政学 国際経済学 国際金融論	経済学史 日本経済史 西洋経済史 経済政策論 社会政策論 経済統計学 金融論 財政学 国際経済学 日本経済論 農業経済学 労働経済学 環境経済学